

科目名	技術経営論 Technology Entrepreneurship		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・月・5 限	-	-	-
担当教員名	伊藤 龍史	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>本講義では、技術経営論の中でも特に、起業の文脈における技術（テクノロジー）のマネジメントを学ぶ。具体的には、テクノロジー分野のバックグラウンドを持つ起業家を想定し、起業のプロセスを段階的に追っていきながら、直面する各種の複雑な問題に対処する上での考え方（概念・理論など）および実用的なツールキットを学ぶ。本講義のメインテーマは「テクノロジー・アントレプレナーシップ（Technology Entrepreneurship：以下「TE」と表す）」であり、理論の吸収だけでなく自らがビジネスモデルを作成することをつうじて、このテーマに関連する専門的知識の習得を目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>本講義は起業のプロセスを段階的に追いながらテクノロジー・アントレプレナーシップを学ぶものであり、したがって経営における特定の分野に関する知識ではなくむしろ体系的な知識を身につけることを目指す。さらには、テクノロジー・アントレプレナーシップに関連するビジネスモデルの作成をつうじて、概念や理論などを適用する力を習得することも目指す。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>本講義では、システム思考の活用、ビジネスモデルキャンバスまたはリーンキャンバスの作成および発表をつうじて、受講生自らが手を動かしながら知識の習得に取り組む。</p>				
<p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1 回目：ガイダンス／イントロダクション 本講義の概略を紹介するとともに、TE の定義、イノベーション、エフェクチュエーションなどについて説明する。</p> <p>2 回目：ビジネスモデルとシステム思考 テクノロジーベンチャーのビジネスモデルを作成する上で必要な思考方法について、特にシステム思考に焦点を当てて説明する。</p> <p>3 回目：テクノロジーアントレプレナーの誕生 TE のアイデンティティ、アイデンティティ形成、およびアイデンティティ理論などについて説明する。</p> <p>4 回目：テクノロジーベンチャーの創出 TE の文脈におけるビジネスモデル、ビジネスの種類、B2C、B2G、消費連鎖、ペインポイントの考え方などを説明する。</p> <p>5 回目：市場の理解 TE の文脈における購買プロセス、競合分析、顧客価値、市場細分化、マーケティングミックスなどを説明する。</p> <p>6 回目：プロダクトの開発 TE の文脈におけるプロダクトの採用、商業化、普及プロセスなどについて説明する。</p> <p>7 回目：ベンチャーファイナンス TE にとってのファイナンスを考える上で必要な、特に会計にまつわる基礎的な知識を説明する。</p>				

8 回目：資金調達

TE による資金調達について、エクイティやデットによる調達をはじめとした各種の調達方法について説明する。

9 回目：ベンチャー経営戦略

TE の文脈におけるビジネスプラン作成、市場参入戦略、先行者優位、バリューチェーンなどについて説明する。

10 回目：ベンチャーマーケティング

TE の文脈におけるマーケティングミックス、マーケティング戦略、国際マーケティングなどについて説明する。

11 回目：ベンチャーマネジメント

テクノロジーベンチャーにおけるオペレーション、プロセス管理、鍵となる業績指標、インフラ管理などについて説明する。

12 回目：テクノロジーベンチャーにおけるリーダーシップ

TE がリーダーとして持つ必要のある各種のスキル（分析スキル、交流スキル、抽象化スキル、意思決定スキルなど）について説明する。

13 回目：テクノロジーベンチャーのイグジット

各種のイグジットの手法や、イグジットに関連する基礎的な知識について説明する。

14 回目：ビジネスモデルの発表（前半）

13 回目までに作成したビジネスモデルについて、受講生による発表を行う。

15 回目：ビジネスモデルの発表（後半）

13 回目までに作成したビジネスモデルについて、受講生による発表を行う。

16 回目：授業のまとめ／期末レポートの提出

<講義の進め方>

あらかじめ、レジュメを配付する。各授業においては主に、前半でレジュメに関する講義を行い、後半でビジネスモデルの作成を行う。

<事前事後学修内容>

事前に配付するレジュメに目を通しておくこと。また、授業終了後の復習をつうじて知識を定着させること。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習に十分な時間を確保すること（一般的に、授業の予復習にはおよそ計4時間かかるとされる）。

<教科書及び教材>

教員が作成したレジュメ等を配付する。

<参考書>

特になし

<成績評価方法>

期末レポート（ビジネスモデル提案書）で評価する（100パーセント）
欠席6回以上は成績評価しない

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法> Teams 等にて、全体に対するフィードバックを行う
<履修条件> 特になし
<ディプロマポリシーとの関連> 基礎知識の学修に該当
<録画映像の視聴> 可
<オフィスアワー> なし(事業創造大学院大学には講義時間前後しかいないため、質問や相談等がある場合は、伊藤のメールアドレスへ連絡するようお願いいたします)
<その他> 特になし